

としょかん かいちょう 図書館 小正鳥 トリボン

さく・いしいしんじ 絵・かげやまなおこ

だい 4 話 とりぼんのゆめ 第4話 トリボンのゆめ

きんりんしょうがっこう としょかん とりぼん ゆめ
錦林小学校の図書館にすんでいるトリボンには、ふたつの夢があります。

ひとつ目は、カラーページをもつこと。

とりぼん ほん もじ え しやしん
トリボンのからだは本でできていますが、文字ばかりで、絵や写真がありません。もちろん、書かれていることばがおもしろければ、それでOKなのですが、とりぼん
トリボンはときどき、じぶんのからだをパラパラめくりながら、

「ちょっぴり、おしゃれしてみたいな。青ページや、水玉もようなんかで」

なんておもっています。

もうひとつの夢は、いつか、高い高い空を飛びまわること。

くも たか やま うえ おお わ と
「雲にさわられるくらい、高い山の上を、大きな輪をかいて飛べたらなあ！」

けれども、とりぼん ほん かぜ ふ と
けれども、トリボンは本ですから、ちょっとした風でかたんに吹き飛ばされてしまいます。そもそも、まどべ ぐーぐー ひるね とり ほん
そして、窓辺でグーグー昼寝していたのきな鳥が、本にはさまってトリボンになったのです。そんな高いところまで舞いあがるなんて、ちょっとむりかもしれません。

ひ ねんせい くらす たんにん せんせい としょかん
ある日、3年生のクラスが、担任の先生といっしょに図書館にやってきました。

担任の山田先生はおんなのひとで、スポーツがとくいそうです。

「さあ、みんな、今日は図書館を、みんなの手で、もっとたのしくしましょう」

と元気な声で、山田先生がいました。トリبونは棚の上で、なんだろう、とわくわくしながらページをとじています。

「みんな、はさみを持ってきていますね。テーブルの上の画用紙で、この図書館の本にはさむ、シオリをつくりましょう」

山田先生のまわりに、こどもたちが集まります。みんな目をかがやかせながら、じょうずにはさみを使い、色画用紙を切って、細長いシオリをつくっていきます。

そうしてえんぴつで、それぞれのシオリに「とってもおもしろいよ」「スポーツ好きなあなたにおすすめです」「オバケってほんとうにいる、かも」などと書きこむと、棚の上の好きな本にはさみこんでいきました。山田先生のいうとおり、図書館はあっというまに、もっとたのしい場所になりました。

ところが、どうしたのでしょうか、女の子がひとり、泣きそうな顔をしています。名札には、“おおたに ゆうこ”，と書いてあります。

「おおたにさん、どうしたの」

と山田先生がききました。

「わたし、わたし、ぶきっちょで、はさみでまっすぐ、シオリのかたちに、紙が切れへんのん」

目をこすりながら、おおたにさんがいました。

山田先生はやさしくほほえみ、

「あのねえ、おおたにさん、シオリって、まっすぐなかたちやなくていいのよ。まっすぐ、細長いなんて、決まってへんのよ。好きな風に切ってごらん」

おおたにさんはしばらくテーブルの上を見つめていました。そして、真っ青な画用紙を手にとると、はさみでザクザク、切っていきました。クラスのともしどもみんな見えています。

やがておおたにさんのシオリが完成しました。大きさは、たっぷり、本のページくらい。まわりはふわふわ、まるく波打ったかたち。ともだちの誰かが、

「ゆうちゃん、それ、青い空の、雲みたいやね」

といいました。おおたにさんは照れくさそうに笑い、立ちあがると、まうしろの棚に置かれてあった本を一冊手にとり、まんなかあたりのページにそっとはさみしました。

「あれえ、先生」

「どうしたの」

「この本、なんか今、勝手にパタパタ、ひらいたりとじたりしてたかも」

いっぺんにふたつの夢がかなってしまったトリボン^{とりほん}は、うれしすぎて、羽ばたきするのを、いっしょうけんめいにこらえていました。



せいさく としょかんかつようぶかい
(制作：図書館活用部会)